

環境報告書 2025



空から見た相模大井工場



わかもと製薬株式会社

相模大井工場

目 次

会社概要	2
1 ご挨拶	3
2 環境方針	4
3 環境管理体制	5
4 専門部会の活動	5
5 環境負荷の全体像	6
6 環境への取り組みと実績	7
(1) 温室効果ガスの排出量の推移	8
(2) 大気汚染物質の推移	8
(3) エネルギー使用量の推移	9-10
(4) 用水使用量・公共下水道排水の推移	11
(5) 廃棄物発生量の推移	11-12
(6) 化学物質の管理	12
7 環境会計	13
8 緊急事態の対応	14-16
9 社会貢献活動	16-18
10 終わりに	18

会社及び工場概要

- ・設立 1929年4月
- ・資本金 33億95百万円
- ・本社 東京都中央区日本橋本町
2-2-2
- ・事業内容 医薬品、医薬品外品、医療機器、健康食品などの製造販売
- ・相模大井工場 神奈川県足柄上郡大井町
金手378
(敷地 67千m²、建物延面積 23千m²)
- ・工場及び研究所人員 212名
(2025年7月1日現在 協力会社を含む)
- ・常駐する協力会社
 - 特別警備保障(警備業務)
 - (株)ジャパン・リリーフ (マイクロバス運転業務)
 - (株)東海ビルメンテナス (清掃業務)
- 派遣会社 6社
- エネルギー使用量
 - ・電力 8,332千KWh
 - ・都市ガス 2,348Nm³
 - ・ガソリン(社用車・マイクロバス)
2,455L
 - ・LPG 68m³
 - ・井水 612千m³

1 ご挨拶

環境への取り組み

2025年もウクライナ情勢や中東地域の緊張状態は続いており、さらにトランプ政権による関税政策の影響もあり、経済活動の不安定な状態が続いております。新型コロナウイルス感染症は依然として私たちの生活に影響を及ぼしている状態であります。

環境面においては、近年の気候変動の影響により今年の夏も記録的な暑さであり、40°C以上を観測した地域も多くみられました。梅雨明けが記録的に早く、かつ猛暑が長く続いたため、エネルギーや商品の需要と供給バランスに影響があったのではないかと思われます。激しさが増す暑さから健康を守るために、本年6月1日から労働安全衛生規則が一部改正され、職場での熱中症対策が義務化されました。今後も地球温暖化の影響を受けて夏の猛暑日がより多く発生し、人々の健康や農業、さらに製造などの作業環境に多大なる影響を及ぼすことが予想されます。そのため、地球温暖化防止に向けて環境改善への取り組みは継続的に行っていかなければなりません。

このような中、相模大井工場では医薬品・医薬部外品等の製造を通じて継続的に環境負荷低減を目指しています。省エネルギーおよび温室効果ガス排出の削減活動については、電気、ガスおよびガソリンの使用量の削減を目標としています。またガスボイラの更新に加え、オフサイトPPAの運用を開始していき、二酸化炭素排出量の削減に努めております。さらに効率性の良い省エネルギーにつながる製造設備や空調設備等の更新も引き続き進めてまいります。製造に必要な製造用水や特定化学物質については各部会にて確実に管理しています。廃棄物削減については、再資源化率の向上および排出量の削減を全部署で実施しています。また、新型コロナウイルスの感染症予防対策をしながら外部団体や地域の行事に積極的に参加し、コミュニケーションをとて相互理解を深めております。

さらに、日本眼科用剤協会ではプラスチックの使用量削減の取り組みとして、点眼薬用の添付投薬袋の削減を進めています。当工場においてもそのビジョンに賛同し投薬袋の削減を推進していきます。

本年度も環境マネジメントシステムの定期的な維持審査を受け認証を取得しております。今後も管理体制を強化し環境活動の推進に努めてまいりますので、皆様のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年10月
わかもと製薬株式会社 相模大井工場
取締役 生産本部長
相模大井工場長 谷口 誠

2 環境方針

環境方針

基本理念

わかもと製薬株式会社相模大井工場は、「医薬品、医薬部外品、診断薬や医薬品原料および食品用乳酸菌」の製造を通じて、価値のある製品を提供し社会貢献していくとともに、次世代に住みよい豊かな地球を引き継ぐために、地球環境保全活動を積極的に推進する。

基本方針

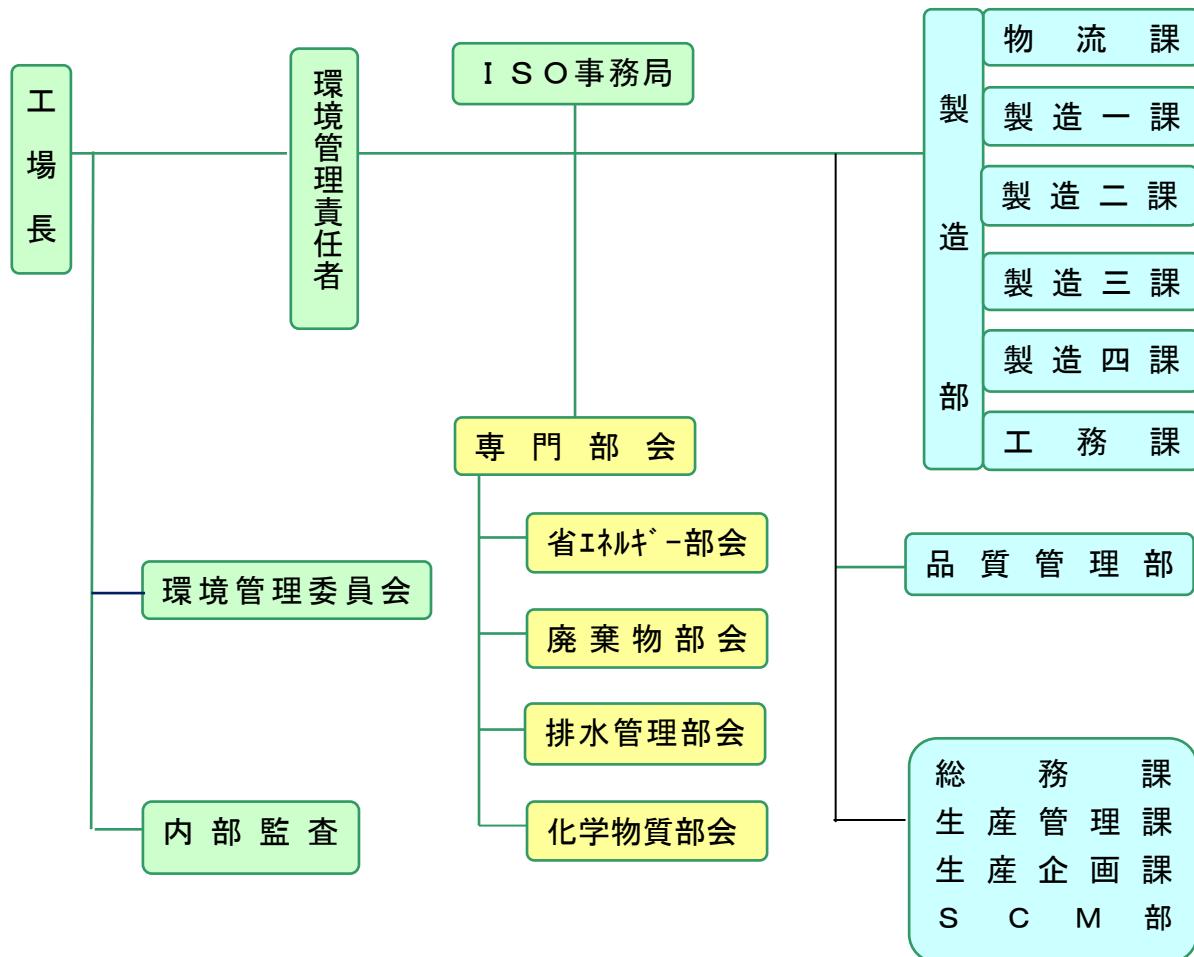
1. 事業活動が環境に与える影響を明確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で汚染予防に努める。
2. 環境関連の法律、規制や協定およびその他の要求事項を遵守する。
3. 省資源、省エネルギー、有害物質の使用低減、廃棄物の削減および再資源化を推進し環境負荷低減に努める。
4. 農業用地に隣接した立地条件を考慮し排水の管理を徹底するとともに、地域社会とのコミュニケーションを深めより一層の調和に努める。
5. 定期的に環境マネジメントシステムの監査を実施し、システムの見直しを通じて継続的な改善・向上を図る。

環境保全活動を実施、維持して、内容を周知するとともに、外部の要求に応じ公表する。

2024年 7月 1日
わかもと製薬株式会社
相模大井工場 取締役 生産本部長
相模大井工場長 谷口 誠

3 環境管理体制

わかもと製薬株式会社相模大井工場の環境管理は、以下のような組織で運営しています。



4 専門部会の活動

省エネルギー部会

省エネルギー、CO₂排出量の削減活動の推進・啓発を目標に、省エネタイプの機器等の導入、冷房・暖房の適正温度の順守活動、各部門のエネルギー使用量をフィードバックすることにより、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

廃棄物部会

廃棄物排出量の減量化計画立案、推進、リサイクルの推進・啓発活動を行い、リサイクル率の向上及び廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

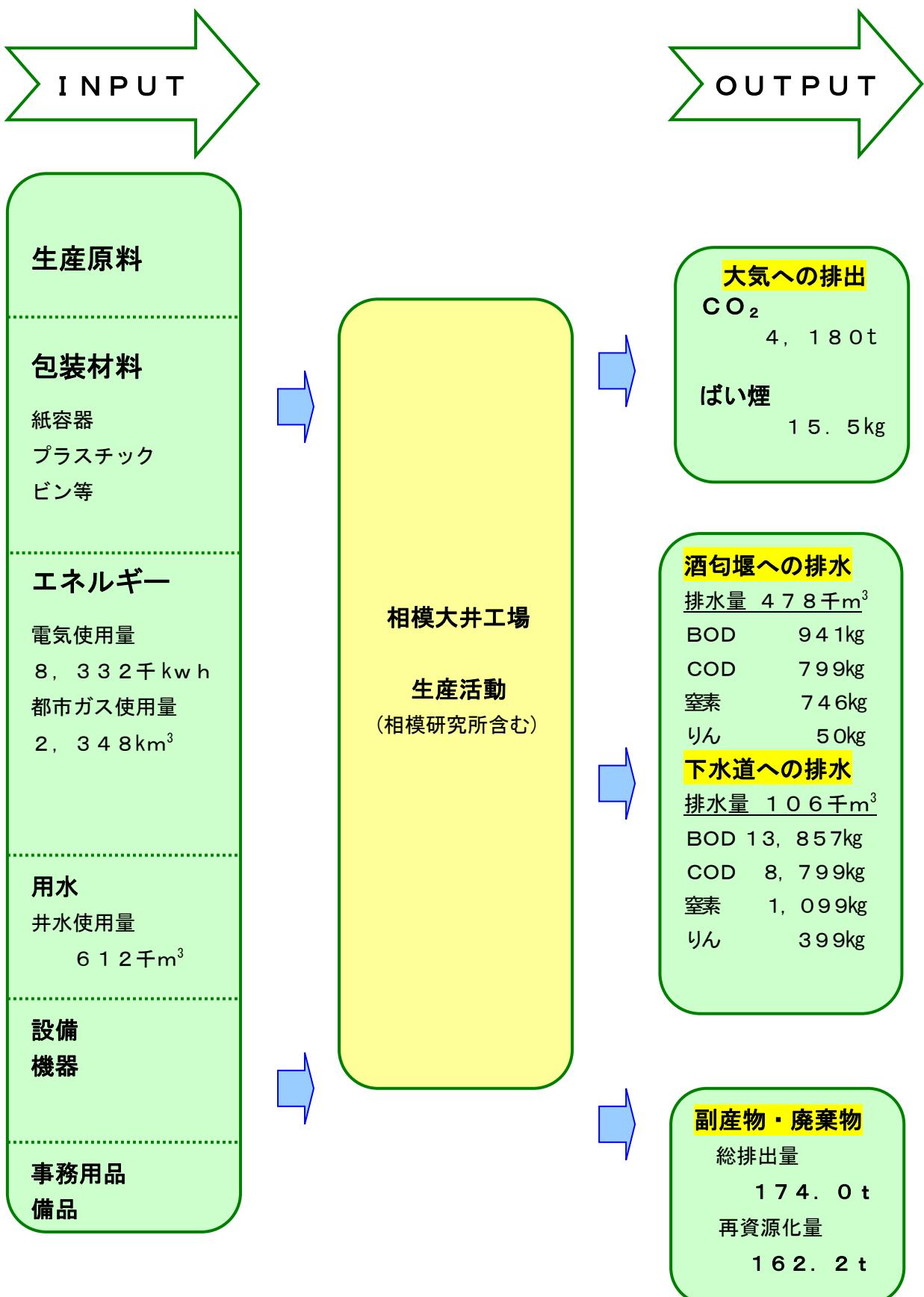
排水管理部会

排水管理を推進・啓発し、一般排水、公共下水道排水への未処理排水等を流出させないよう取り組んでいます。

化学物質部会

化学物質の管理を推進、啓発活動を行い、取扱量、排出量の把握と削減に取り組んでいます。

5 環境負荷の全体像（2024年度 年間使用、排出量）



6 環境への取り組みと実績

2024年度環境目的・目標マネジメントプログラムに定めた実施項目に従い、環境保全活動を推進しました。主な活動実績は下記の通りです。新型コロナウイルス感染症は依然として影響があるものの、感染対策を取りながら生産増を進めた結果、エネルギー量と廃棄物量ともに増加となりました。

2024年度 活動結果

目的	目標	結果	備考
温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none">電力使用量の削減 電気買取とCGS発電分 (2023年度以下)都市ガス使用量の削減 都市ガス購入量 (2023年度以下)社有車等燃料使用量の削減 (社用車3台、マイクロバス 2023年度以下)	<ul style="list-style-type: none">前年度比 107.5%前年度比 108.2%前年度比 110.6%	
廃棄物の減量化	<ul style="list-style-type: none">排出量の削減 (2023年度以下)資源化率の向上 (91%以上)	<ul style="list-style-type: none">前年度比 117.2%資源化率 93.0%	
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none">コピー紙使用量の削減 (2023年度以下)副産物の有効利用	<ul style="list-style-type: none">前年度比 123.4%肥料として農家等 に譲渡	
環境管理の改善	<ul style="list-style-type: none">作業効率の向上	<ul style="list-style-type: none">作業等の改善提案とし て209件提出された。	
法順守体制の整備	<ul style="list-style-type: none">PRTR法対応の推進緑地の維持管理	<ul style="list-style-type: none">特定有害物質の県への 届出。定期的に緑地の除草及 び樹木の剪定を実施し た。	
地域社会との共生	<ul style="list-style-type: none">地域社会で開催する美化活動等への 参加地域行事への協力	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスの 影響の様子を見つつい ベントに参加しまし た。	

(1) 温室効果ガス排出量の推移

CO₂の排出量は、4,810tでした。2023年度(4,870t)より60t温室効果ガスを削減しました。2023年度報告から、CO₂フリー電力(環境価値を反映した係数)を購入していることから、実質都市ガス使用のみ(直接排出)の排出量となっています。また、燃焼効率の良いボイラへ更新したことも減少理由の一つと考えられます。

温室効果ガス (CO₂) 排出量 単位 : t (過去 8 年間の推移)



(2) 大気汚染物質の推移

ばい煙排出量はボイラ6台から排出されたものです。2024年度15.5g/Hでした。2023年(11.9g/H)と比べて3.6g/H増加しました。増産によりエネルギー使用が増えた影響と考えられます。

ばい煙排出量 単位 : g/H (過去 8 年間の推移)



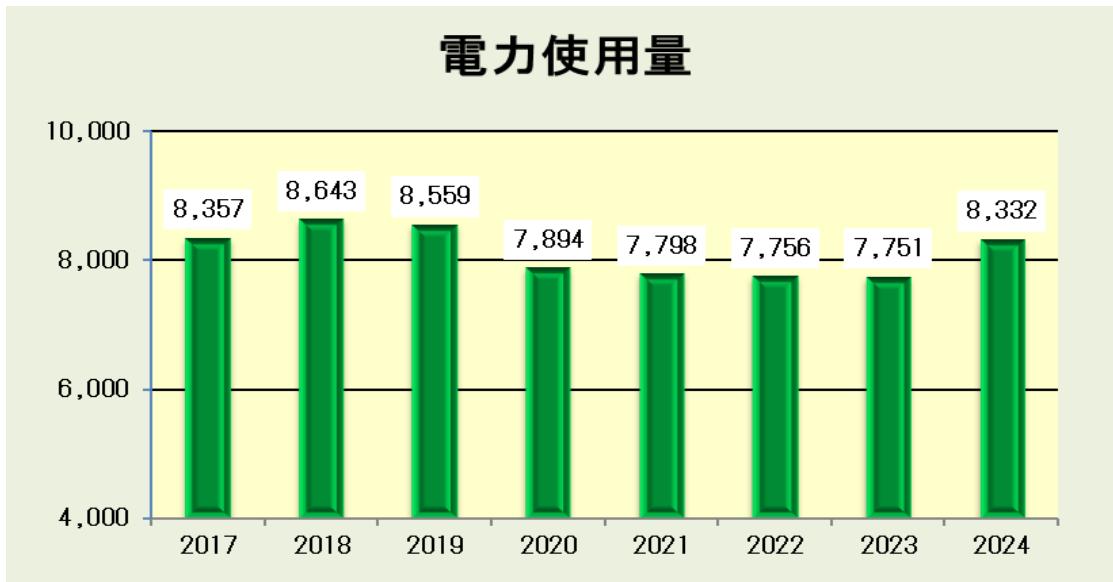
※ばい煙量については、実測した2回の平均を使用しています。

(3) エネルギー使用量の推移

1) 電力使用量の推移

2024年度の電気使用量は、8,332千Kwhでした。2023年度（7,751千Kwh）と比較すると、実績で581千Kwh電力買取量が増加しました。理由としては生産が増加したことによる影響と考えられます。

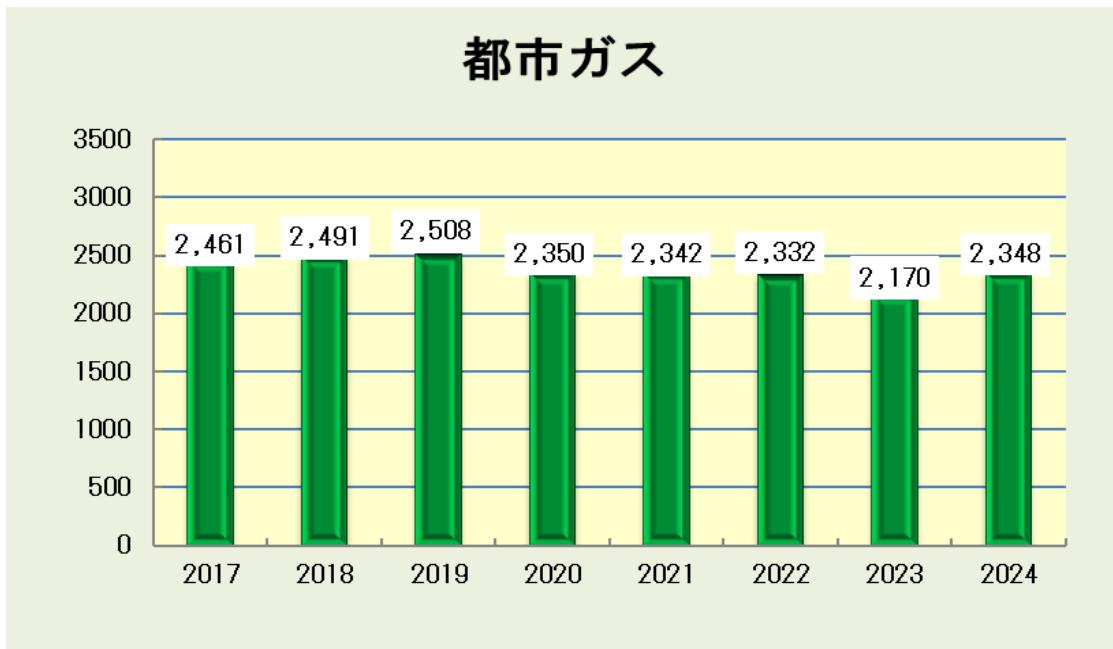
電力使用量 単位：千Kwh (過去8年間分の推移)



2) 都市ガス使用量の推移

2024年度の都市ガス使用量は2,348Km³でした。2023年度（2,170Km³）と比較して178Km³増加しました。理由として生産増の影響が考えられます。

都市ガス使用 単位：ガス Km³ (過去8年間分の推移)



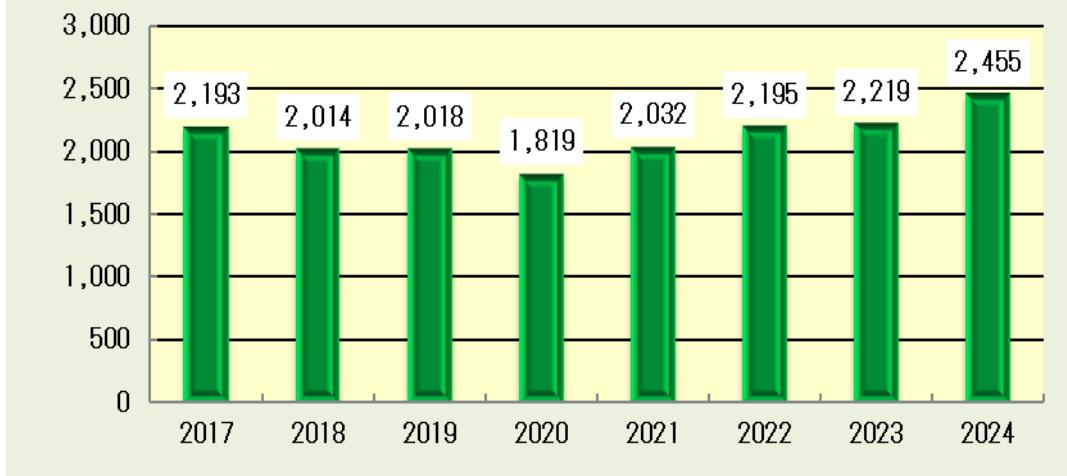
3) ガソリン（社用車・送迎マイクロバス）の使用量

ガソリンの使用2024年度のガソリンの使用量は、2,455Lでした。2023年度（2,219L）と比較して、236L増加しました。増産によりマイクロバスの社員送迎の多かったことや外部申請や届け出で社用車を多く使用したため、増加したものと考えられます。

ガソリンの使用

単位：L（過去8年間分の推移）

ガソリン購入量

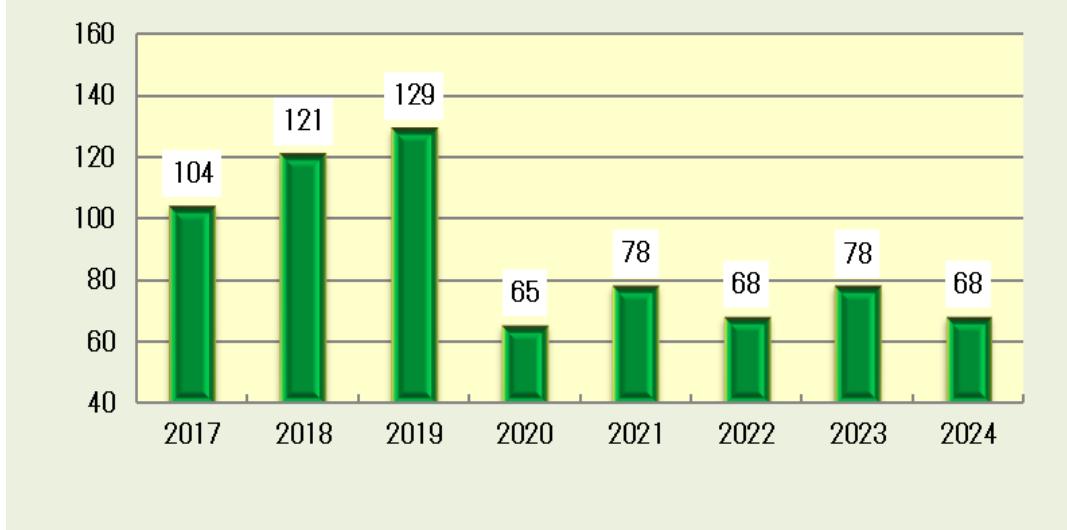


4) LPG使用量の推移

LPGについては、2024年度は68m³使用しました。2023年度（78m³）と比較して10m³減少しました。新型コロナウイルスが発生して以来、2020年ごろからほぼ横ばいです。

LPG使用量 単位：m³（過去8年間分の推移）

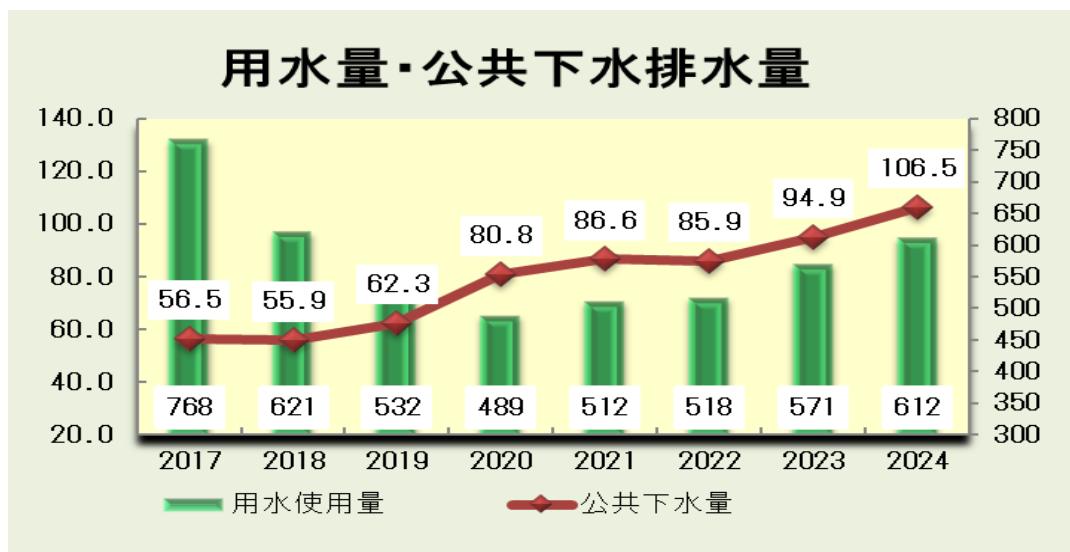
LPG



(4) 用水使用量及び公共下水道排水の推移

2024年度の工場（研究所含む）用水使用量は612千m³でした。2023年度（571千m³）に比較して41千m³増加しました。公共下水は、2024年度106.5千m³排出し、2023年度（94.9千m³）に比較して11.6千m³増加しました。理由としては生産増の影響が考えられます。

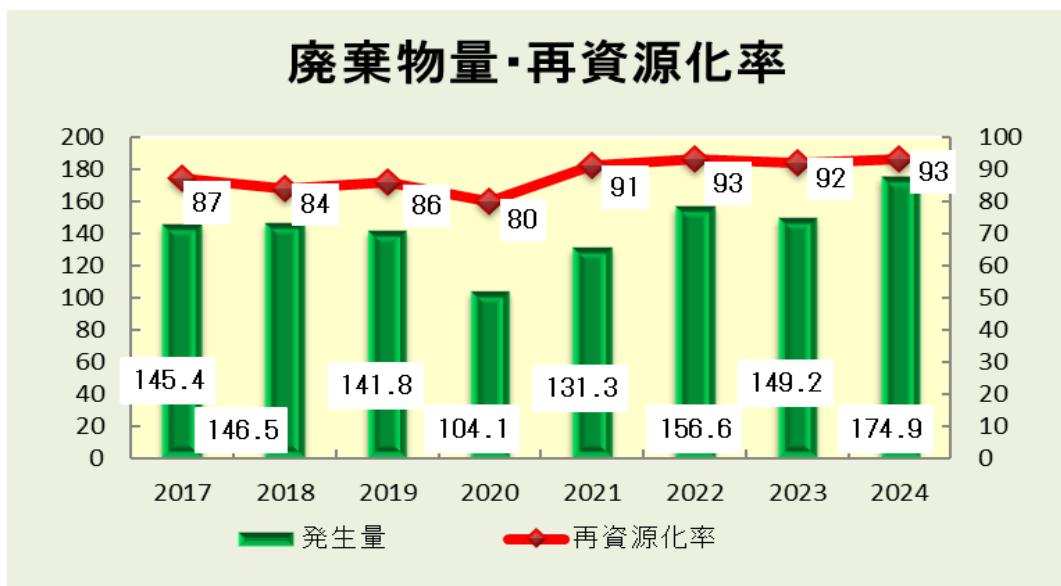
用水使用量・公共下水排水量 単位：千m³ (過去8年間分の推移)



(5) 廃棄物発生量の推移

日頃より、産業廃棄物量の削減、再資源化率向上に努めています。2024年度は年間総廃棄物量が174.9t発生し、2023年度（149.2t）から25.7t増加しました。また、再資源化率は91%を目標とし、93%という結果でした。廃棄物の増加は生産増の影響で、社員の再資源化は分別への取組みの効果が出てきていると考えられます。

廃棄物発生量 単位：t 廃棄物再資源化率 単位：% (過去8年間の推移)



廃棄物保管施設



廃棄物施設面積等	64. 1M × 4. 35M × 3. 8M	
2 t フォークリフト	1台	1台
150 kg 計量器	1台	2台
プレスコンパクター	1台	1台
破碎機（ガラス屑用）	1台	62基
生ゴミ処理機	1台	

(6) 化学物質の管理

PRTR法に則した形で、第一種指定化学物質の年間取扱量1t以上、特定第一種指定化学物質は0.5t以上の物質について、年度ごとに国および神奈川県に環境への排出量等を届出することになっており、対象化学物質の環境への排出量等をまとめています。ヘキサンは生産増の影響です。

主な使用管理対象物質（前年度との比較）

指定化学物質名		取扱量 (Kg)	
		2023年度	2024年度
第一種	ヘキサン	3,707	4,500
〃	エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	2,200	1,900

7 環境会計

集計範囲：わかもと製薬(株)相模大井工場（一部研究所も含む）

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

環境保全コスト

(単位：千円)

コスト分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト		16, 468	19, 394
公害防止コスト	・排水処理施設の維持管理 ・CIP排水中和装置設置	1, 251	2, 301
地球環境保全コスト	・ボイラの維持管理	12, 310	12, 926
資源循環コスト	・廃棄物処理委託 ・廃棄物のリサイクルなど	2, 907	4, 167
上・下流コスト	・容器包装再商品化委託費 ・廃棄製商品の適正処理	1, 322	6, 985
管理活動コスト	・環境マネジメントシステム維持・運用 ・排水、大気等の分析調査 ・事業所内の緑地保全	3, 298	4, 558
研究開発コスト	・動物空調維持管理	9, 634	9, 634
社会活動コスト	・社会貢献活動 ・環境保全に関する団体等への寄付金	100	100
環境損傷コスト	—	0	0
その他のコスト	—	—	—
合 計		30, 822	40, 671

環境保全効果

△は増

効果の内容	単位	2023年度	2024年度	環境保全効果
電気使用量	千Kwh	7, 751	8, 332	△581
都市ガス使用量	Km ³	2, 170	2, 346	△176
ガソリン使用量	L	2, 219	2, 455	△236
井水使用量	千m ³	571	612	△41
CO ₂ 排出量	t	4, 870	4, 810	60
廃棄物排出量	t	149	174	△25
水質 (BOD、COD、N、P)	t	15	27	△12

8 緊急事態への対応

相模大井工場（研究所含む）では緊急事態を想定した防災訓練、火災予防訓練等及び大規模地震災害を想定した避難訓練等を計画的に行っております。また、会社全体では大きな災害が起きた場合、従業員の安否確認をする手法として、A N P I C（安否確認システム）を利用しています。近年、台風や線状降水帯などによる集中豪雨などの影響で、公共交通機関及運行の支障や、道路状況悪化等が発生する状況が増加しています。そのため、社員が安全に帰宅できるよう迅速かつ的確な対応を心がけています。

● ガス漏れ訓練（自衛訓練）

2024年度は、工場内部の特定業務訓練の一環として、地震等による都市ガス漏れが生じたと想定して、当該ガス会社が到着し対応するまでの時間、本部を立ち上げると同時に、ガス漏れ付近を封鎖する訓練を行いました。

● 避難訓練

相模大井工場（研究所を含む）では、地震警報発令による大規模災害を想定した避難訓練を行いました。工場正門のロータリー付近を集合場所とし、移動の時のヘルメット着用を徹底しています。避難誘導班による誘導訓練と人員確認を通じて、迅速な体制確認を行いました。集合後には防火管理者からの報告と、工場長から総括が行われました。

《工場・研究所全体の避難訓練》



● 消火器訓練と放水訓練

訓練は、防火管理者指導により、消火器使用による初期消火訓練と、自衛消防隊の訓練を実施しています。消火器使用による初期消火訓練は、新入社員及び中途採用者を対象にグラウンドにて実施し、有事の際の初期消火の心構え等を教育しました。その後、自衛消防隊員の訓練を行いました。自衛消防隊には消火班とポンプ班があります。消火班は、屋外消火栓を利用した消火訓練が役割となっています。有事の場合この組織中心に対応し、消防車が到着するまでの消火にあたります。例年、自衛消防隊の訓練は、3班ほどに分かれ、消火ホースのつなぎ方から放水口の取り付け、放水合図の方法や放水口での構え方まで、一連の動きを行っていますが、今年は、消火ホースの取扱いを行いました。また、ポンプ班の役割として、消火栓が届かないエリア対応するため可動式消火ポンプが1台配備しています。今回の訓練では、その操作方法の確認をいたしました、また、このポンプは、月に一度エンジンを始動させるなどの定期点検を実施し、常に使用可能な状態に維持管理しています。

《自衛消防隊によるホースと可動式消火ポンプの確認訓練》



《自衛消防隊によるホースと可動式消火ポンプの確認訓練》



● 浸水訓練

相模大井工場の西側には二級河川の酒匂川があります。また、工場の数百メートル上流には、酒匂川の本川に支川である音無川の合流地があります。数年前の線状降水帯の大雨により、堤防の決壊寸前までいたことがありました。そこで、建物内に少しでも水の浸水を防ぐための処置として、「ボックスウォール」を使用して設置訓練を行っています。また、吸水性土のう「アクアブロック」や、土のう袋等も多く購入し、いざという時に被害が最小限になるよう日頃から準備しております。

《ボックスウォールと吸水性土のう》



9 社会貢献活動

● 美化活動

相模大井工場は大井町主催による美化キャンペーンに参加しています。5月に酒匂川統一美化キャンペーン2024に14名、11月に大井町クリーンキャンペーン2024に14名が参加いたしました。いずれの行事も、従業員やご家族の方にも参加していた頂き、ポイ捨てや不法投棄撲滅へ向けての活動ができたと考えます。ただ最近、少しづつ参加者の減少が続いているので、来年以降、社員の行事活動参加への要請に力を入れて行く予定です。

《大井町クリーンキャンペーン2024》



●自動販売機等による募金活動と食品自動販売機

飲料用自動販売機にて売り上げの一部を、非営利団体を通し、東日本大震災への義援金や盲導犬協会の募金支援活動に取り組んでいます。また、赤い羽根募金やエコキャップ活動を通じて、社会貢献活動への協力参加も行っています。また、飲料用の自動販売機の1台を、災害時に飲料水が取り出せるようにして、飲料の確保対策も取っています。福利厚生面では、食堂での調理が廃止され仕出し弁当になりました。また、同時に売店もなくなり代替えとしてコンビニエンス提携自販機を設置しました。

『募金付の自動販売機』



『左側の自動販売機が、コンビニ提携の自動販売機』



『大井町福祉協議会への協力としての赤い羽根募金』



● 献血運動

相模大井工場では年に2回開催しています。2024年度は1回目が7月に11名、2回目が12月に8名の協力がありました。今後も継続して献血運動を推進していきたいと考えます。

● 地域社会との交流

相模大井工場では、地域社会と良好な関係を目的とし、例年、自治会等に対し工場敷地の利用をはじめとした交流を積極的に行ってています。

(1) 地域行事への参加

自治会の年間行事のうち、主に、夏祭り、どんど焼き、花見の会に協賛しています。

2024年7月に開催された夏祭りでは、工場敷地を休憩場所として提供いたしました。また、2025年1月の開催されたどんど焼きでは、相模大井工場で選定した木々の廃材をやぐらの材料として提供いたしました。

(2) グラウンドの開放の取り組み

相模大井工場のグラウンドは、小田原消防署及び神奈川県大井町役場との協定に基づきドクターへリの離発着場として活用されています。さらに、休日には少年サッカーチームや女子ソフトボールチームへの無償貸し出しを行っているほか、地域の保育園園児による凧揚げ大会などにも使用されるなど、地域交流の場として積極的に提供しています。

園児たちの凧揚げ風景



ドクターへリ着陸写真



10 おわりに

相模大井工場は、1968年（昭和43年）に現在の神奈川県足柄上郡大井町金手に移転をし、工場と研究所を併設した形で現在に至っております。表紙の写真は、最近の工場敷地を上空から写した写真です。移転当初の工場周辺は一面畠や田んぼが広がっていましたが、時代が進むとともに、周辺での宅地開発が進んだことや、環境問題に対する世界的な対策強化の推進等の影響もあり、2002年8月に、環境マネジメントシステム ISO 14001認証取得し、相模大井工場として「医薬品、医薬部外品、診断薬や医薬品原料および食品用乳酸菌の製造を通じて、価値のある製品を提供し社会貢献していくとともに、次世代に住みよい豊かな地球を引き継ぐために、地球環境保全活動を積極的に推進する」を環境方針に定め、現在に活動しております。

わかもと製薬は、2029年4月に創業100周年を迎えようとしています。今後も、わかもと製薬がさらなる発展を目指すとともに、「人々の健康に生き活きた生活に貢献」という経営理念を達成できるよう進めてまいりますのでご理解ご協力を賜ればと思います。

本報告書の作成にあたりましては、皆様方からの貴重なご意見・ご感想・ご指導を頂き、作成させていただいている。内容について、さらなる充実を図っていきたいと考えております。何かございましたら下記の事務局までご連絡を頂きますようお願い申し上げます。

「環境報告書2025」に関する意見・お問い合わせは
わかもと製薬株式会社 相模大井工場 ISO事務局
〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手378
TEL: (0465) 83-3311 FAX: (0465) 82-0861